

# 高等学校普通科における キャリア教育カリキュラムの開発

— 特別活動を中心として —

中 井 亜 由<sup>1</sup>

高等学校普通科におけるキャリア教育の推進をめざし、その目的・内容がキャリア教育と深く関わる特別活動を通して展開するキャリア教育カリキュラムの作成に取り組んだ。キャリア教育の円滑な推進のための方策として既存の学習活動をいかしたキャリア教育単元の実践報告やキャリア発達のための諸能力とそれを伸長する学習機会との関係の分析と整理、教科・領域の相互補完性の考察もあわせて行った。

## はじめに

今日、急激な社会変化を背景として、若年層の勤労・社会参加に関わる課題が顕在化している。これを受けて学校教育には、生徒一人ひとりが自らの生き方を探求し、主体的に進路を選択できる能力・態度を育てる教育としてキャリア教育の推進が求められている。キャリア教育推進のためにはその理念の普及とともに、汎用性のあるカリキュラムの開発と実践にいかせる具体的な方策が必要である。そこで、本研究では全国の高等学校の生徒の約73%（平成16年度）が所属し、その生徒達が多様な進路希望をもつ高等学校普通科におけるキャリア教育カリキュラムの開発とその方策の検討に取り組んだ。

## 研究の内容

### 1 キャリア教育とは何か

平成16年1月に文部科学省から出された「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 報告書」（以下、「報告書」）ではキャリア教育を「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」（p. 7）と定義している。

キャリア教育は児童・生徒の全人的な成長・発達を支援する視点に立った取組であり、系統的な指導計画のもと、一人ひとりについて進路発達から進路決定にかかる一連の指導を行うものである。又、社会や集団への適応にかかる指導を重視するものでもある。これらの点において、従来の進路指導を中核としながらそれを包括する広範な教育活動であるといえる。

### 2 キャリア発達のための諸能力

1 県立座間高等学校  
研修分野（キャリア教育）

キャリア発達を支援するためにキャリア教育で育む力を第1表（梶 2004）のように分類して考える。これは国立教育政策研究

所生徒指導研究センター「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）」所収の「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）」（以下、「枠組み」）を参考に神奈川県立総合教育センター平成15年度研究事業「キャリア教育カリキュラムの開発に関する研究」において作成されたものであり、本研究ではこの分類方法を踏襲し、これら10の諸能力を以下「キャリア発達のための諸能力」と呼ぶこととする。

### 3 高等学校におけるキャリア教育

個人が勤労・職業を媒体とした人生観ともいえるべき勤労観・職業観を形成し、職業に関する知識や技能を身につけ、自己理解に基づいて主体的に進路を選択する能力・態度を備えていく過程がキャリア発達であるといえる。「枠組み」によれば、高校生のキャリア発達段階は「現実的探索・試行と社会的移行準備の時期」であり、その時期の課題は①自己理解の深化と自己受容②選択基準としての職業観・勤労観の確立③将来設計の立案と社会的移行の準備④進路の現実吟味と試行的参加の4点となっている。

高等学校の教育課程を踏まえて、キャリア教育を系統的に実施するためには、中心となる領域等を定めてカリキュラムを組み、これを軸としてその他の教科・領域と相互補完を図ることが望ましい。本研究では特別活動を中心として展開するキャリア教育カリキュラムについて提案する。特別活動を中心とする理由は①特別活動とキャリア教育の目標と内容が一致して

第1表 キャリア発達のための諸能力

	領 域	具体的な能力
1	自己教育能力	自己理解能力
		自己表現能力
2	人間関係能力	他者理解能力
		コミュニケーション能力
3	情報活用能力	情報収集・活用能力
		職業理解能力
4	将来設計能力	役割把握・認識能力
		計画実行能力
5	意思決定能力	選択・決定能力
		課題解決能力

いること②学習指導要領に「一層の社会性の育成」や「ガイダンスの機能の充実」が示されている特別活動はキャリア教育を実践する領域として適していること③個に応じたキャリア発達の評価と時宜に適った指導、資料蓄積の場として、特別活動（特にホームルーム活動）が適していることである。これらのことから特別活動は目標・内容・活動の場においてキャリア教育実践の中軸とするに適していると考えられる。

#### 4 特別活動を通して展開するキャリア教育カリキュラムの開発

##### (1) カリキュラム開発の基本的視点

- ア 各学年の履修時間はホームルーム活動 35 単位時間と学校行事・生徒会活動の時間とする。
- イ 特別活動の内容を保障しつつキャリア発達のための諸能力を伸長できるよう、学習内容に配慮し、それらを系統的・継続的に配列する。
- ウ 啓発的・体験的な活動の機会を各学年に配するとともに、事前・事後指導の充実を図る。
- エ ガイダンスの機能の充実を図る。

##### (2) キャリア教育に重点をおいた特別活動年間計画

(1) の各視点を踏まえて第2表のように特別活動の年間計画を作成した。

第2表 キャリア教育に重点をおいた特別活動年間計画(例)

期	月	1 学年	時数	2 学年	時数	3 学年	時数	総時数
4		新クラスになって	1	新クラスになって	1	新クラスになって	1	3
		各種委員会委員選出	1	各種委員会委員選出	1	各種委員会委員選出	1	
		部活動紹介(1年)	1	部活動紹介(2・3年)	1	部活動紹介(2・3年)	1	
		自己理解1 (自分史・高校生活への期待と進路希望調査)	1	自己理解4 (キャリア発達について・進路希望調査)	1	自己理解5 (キャリア発達について・進路希望調査)	1	
5		メディアガイダンス (図書館・進路室の利用について)	1	修学旅行1(事前学習①)	1	推薦制度等進路ガイダンス[学年]	1	4
		社会見学1(事前学習・準備)	1	社会見学1(事前学習・準備)	1	社会見学1(事前学習・準備)	1	
		自己理解2 (進路適性検査受検)	1	ゲーム学習3 (フリーターについて)	1	ゲーム学習4 (求人票の見方)	1	
		文化祭1(企画・役割分担)	1	文化祭1(企画・役割分担)	1	文化祭1(企画・役割分担)	1	
6		教育課程・進路ガイダンス[学年]	1	教育課程・進路ガイダンス[学年]	1	大学等個別ガイダンス・出張授業1 [学年](当日)	2	4
		教育課程・進路ガイダンス[クラス]	1	教育課程・進路ガイダンス[クラス]	1	大学等個別ガイダンス・出張授業2 (振り回り)	1	
		ゲーム学習1 (ライフプランニング)	1	教育実習生講話	1	大学等個別ガイダンス・出張授業2 (振り回り)	1	
		自己理解3(進路適性検査結果分析)	1	修学旅行2(事前学習②)	1	進路計画の検討	1	
7		職業インタビュー1(事前学習)	1	職業体験学習1(事前学習)	2	大学等キャンパス訪問1(事前学習)	2	3
		職業インタビュー2(当日)	1	職業体験学習2(当日)	1	大学等キャンパス訪問2(当日)	1	
		職業インタビュー3 (振り回りとクラス発表)	2	職業体験学習3 (振り回りとクラス発表)	2	大学等キャンパス訪問3(事後学習)	2	
		文化祭2(準備)	1	文化祭2(準備)	1	文化祭2(準備)	1	
8		文化祭3(当日)	1	文化祭3(当日)	1	文化祭3(当日)	1	4
		文化祭4(振り回り)	1	文化祭4(振り回り)	1	文化祭4(振り回り)	1	
		文化祭5(準備)	1	文化祭5(準備)	1	文化祭5(準備)	1	
		文化祭6(振り回り)	1	文化祭6(振り回り)	1	文化祭6(振り回り)	1	
9		クラス討議1(生徒の自治について)	1	クラス討議3(生徒の自治について)	1	クラス討議5(生徒の自治について)	1	18
		進路探求1 (自分の学校の進路状況を知る)	1	進路希望分野別ガイダンス1[学年] (当日)	2	ゲーム学習5 (外国の学生と日本の学生)	1	
		進路探求2 (上級学校を知る・入試制度を知る)	2	進路希望分野別ガイダンス2 (振り回り)	1	進路面接演習	2	
		進路相談週間 (行事)	1	進路相談週間 (行事)	1	進路相談週間 (行事)	1	
10		選択科目・コース決定	1	選択科目・コース決定	1	ゲーム学習6 (38歳の年収と生活)	1	4
		クラス討議2 (我が家と地域の防災を考える)	1	クラス討議4 (自立への悩み)	1	ゲーム学習7 (社会保険制度を知る)	1	
		地域清掃	2	講演2(男女共同参画社会)	2	講演3(求められる社会人倫)	2	
		講演1(薬物乱用防止)	2	地域清掃	2	進路計画の確認	2	
11		ゲーム学習2(自分の大切なもの)	1	小論文「将来の希望」	2	地域清掃	2	3
		職業と自分1 (広く職業を知る)	1	福祉体験1 (訪導・車椅子・高齢者疑似体験等)	1	卒業文集作成	1	
		職業と自分2 (勤労者の育成・職業への道)	2	福祉体験2(振り回り)	1	卒業文集作成	1	
		一年間の振り返りとキャリア発達自己評価・将来設計立案	1	一年間の振り返りとキャリア発達自己評価・将来設計立案	1	一年間の振り返りとキャリア発達自己評価・将来設計立案	1	
12		儀式行事への取組	1	儀式行事への取組	1	儀式行事への取組	1	2
		儀式行事への取組	1	儀式行事への取組	1	儀式行事への取組	1	
						後期総時数		17
						年間総時数		35

#### 5 キャリア教育の円滑な推進のための方策

「報告書」には「キャリア発達には、児童生徒が行うすべての学習活動等が影響するため、キャリア教育は、学校のすべての教育活動を通して推進されなければならない。」(p.10)とある。教科や領域として固有の時間をもたないキャリア教育を学校全体の教育活動を通して円滑に推進するためには、①既存の学習活動をいかした単元を開発すること②キャリア発達のための諸能力を伸長する学習機会を一般化し、どの教育活動でも活用できるようにすること③各教育活動の相互補完を図る工夫を考案すること等が必要である。これらの点を踏まえ、次にキャリア教育の円滑な推進のための方策を示したい。

##### (1) 既存の学習活動をいかしたキャリア教育単元の開発

これまでにもホームルーム活動で文化祭等の行事の事前・事後学習を行うことはあったが、そこに生徒のキャリア発達を促す活動を取り入れることにより既存の特別活動をいかしたキャリア教育の単元を開発した。

##### ア 単元の目標

文化祭に対する主体的な取組への促しと振り返り学習を通して、自己理解の深化、課題解決能力や社会性の育成を図り、主体的な進路決定と将来設計への意欲を喚起する。

##### イ 単元の指導計画

- 第1時 文化祭準備Ⅰ(文化祭のクラス発表企画・役割分担についての話し合い)
- 第2時 文化祭準備Ⅱ(文化祭の直前計画立案、各人の役割と活動計画についての確認)【授業実践】
- 第3時 文化祭の振り返り(文化祭に対する自己の取組の振り返りと課題設定)【授業実践】

第3表 単元の学習の流れ

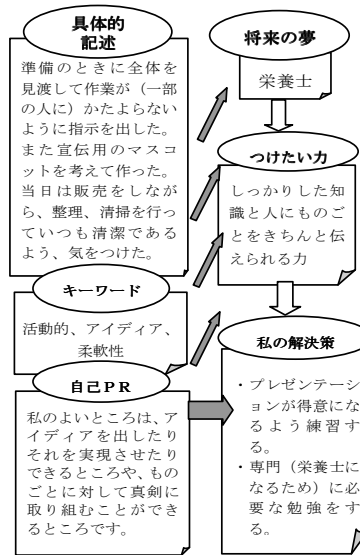
時	学習活動	伸長が期待できるキャリア発達のための諸能力
第1時	<クラス討議> *文化祭のクラス発表の企画・全体計画について情報を収集、話し合い、記録する。 *計画に基づき必要な役割を考案し、自己の役割を選ぶ。	自己表現能力、他者理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・活用能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、選択・決定能力
第2時	<ワークシート学習> *自己の長所・適性を考え、文化祭における活動目標を立てる <クラス・係別討議> *文化祭直前準備について話し合い、必要な情報を収集し、作業計画を立て記録する。	自己表現能力、他者理解能力、コミュニケーション能力、情報収集・活用能力、役割把握・認識能力、計画・実行能力
第3時	<ワークシート学習> *文化祭期間中の自己の行動を振り返り、自己の長所・適性を見だし表現する。他者評価を行う。 *進路希望を踏まえ、社会・集団の中で自己実現を図るために身につけたい能力・態度について考察する。それを身につける方法を考える。 <本時の振り返り>	自己理解能力、自己表現能力、他者理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力、課題解決能力

##### ウ 実施年月日・場所・学年

- ・平成16年9月2日6校時(第2時)、9月27日5校時(第3時)いずれもホームルーム活動の時間
- ・県立座間高等学校(全日制普通科)第1学年158名
- エ 実施概要・結果と考察(第3時)
- (ア) ワークシート学習

<学習内容>

文化祭期間中の自己の行動を振り返り、具体的に記述することから長所・適性を見いだしキーワードで表現したり自己PR文を書いたりすることを通して自己理解の深化を図る。さらに進路希望と適性の関係を踏まえての自己の課題設定とその解決策の検討を行うことにより、社会性と課題解決能力の育成を図り、主体的な進路選択への意欲を喚起する。



第1図 生徒の記述例

＜生徒の記述例(第1図)と考察＞

この生徒が内省によって、自己の行動の振り返りから適性・長所の把握、進路希望を見据えた課題設定とその解決策の考察へと思考がすすむ様子がうかがえる。日常の学習活動の中で課題解決への取組を支援したり、進路先や資格取得に関わる情報のさらなる収集を促したりする指導が考えられる。

(イ)「本時の振り返り」

＜学習内容＞

第3時の学習の中で、「文化祭の振り返り」ができたか、適性・長所の把握ができたか、社会の中で自己をいかしていくための課題について考えられたか、課題解決策を考えているか、自己の適性把握と進路決定の関係が理解できたか、様々な職業に関する知識・情報を得る意欲があるかの各問への回答を通して課題解決能力の育成を図り、主体的な進路決定と将来設計への意欲を喚起する。

＜考察＞

文化祭期間中の自己の振り返りについては87%の生徒が、「できた・まあまあできた」と答えており、又、自己の長所の表現については68%の生徒が「できた・まあまあできた」と答えている。第2時実施のワークシートの「自分自身の長所を人に説明できるか」という問いに対して「できる・まあまあできる」と答えた生徒の割合

はわずかに27%であった。単純な比較はできないが第3時の学習を通して自己理解が深化したと考えることもできる。社会集団において自己をいかすための課題の考察については67%の生徒が「できた・まあまあできた」答えており、その内63%の生徒が課題解決の具体策について「考えている」と答えている。又、適性理解と進路選択の関係の理解については70%の生徒が「できた・まあまあできた」と答えている。これらにより進路希望と適性を踏まえた課題設定や解決策の考察については一定の成果が見られるが、十分な考察にまで至っていない生徒もいることがわかる。職業に関する情報や知識については86%の生徒が必要だと感じており、職業理解への意欲がうかがえる。生徒一人ひとりのワークシートの記述を精読・分析し、理解や考察が不十分な生徒には個人面談等の機会を利用して個に応じた指導や相談を行う必要がある。又、多数の生徒が必要としている学習については、ガイダンスや関連した単元の設定が必要である。

オ まとめ

他の行事・体験学習等についても応用できる単元として汎用性があり、既存の学習活動を通してキャリア教育を実践するにあたり有効な単元と考えられる。

## (2) キャリア発達のための諸能力を伸長する学習機会について

第4表 キャリア発達のための諸能力と学習機会

No.	諸能力	諸能力の伸長が見込まれる主な学習機会	指導上の工夫及び留意点
1	自己理解能力	○自分を客観的に振り返ることで、自己の価値観について考える。 *適性検査 *面談 *自己の生活の振り返り *体験学習・行事等とその後の振り返りや自己評価 *あるテーマについて考えたことについての意見交換・討議	○行事・体験学習後の振り返りの機会の設定 ○振り返りの方法の理解・習得
2	自己表現能力	○話し合い、討議、会議の場で自分の意見を述べる。 ○情報を整理して自己の意見を書く。 ○他者の前で説明、発表する。	○表現技術の習熟 *教科「国語」との連携(話すこと・書くこと) *教科「情報」との連携(プレゼンテーション技術等)
3	他者理解能力	○話し合い、討議、会議の場で他者の意見を聞き、理解する。 ○年齢、地域等の異なる人々の考えや生活の様子を知り、様々な価値観を知る。	○他者の声に耳を傾ける姿勢と技術の習得 *傾聴訓練 *聞き取りシート、報告書の作成 *生徒相互の他者評価
4	コミュニケーション能力	○話し合い、討議、会議の場でお互いの意見を調整し、よりよい案を創出する。 ○体験学習や行事において協力して活動する。 ○校内外で場と相手に応じた適切なコミュニケーションを図る。	○コミュニケーション意欲の喚起 *教科「外国語」との連携(コミュニケーションへの意欲) ○コミュニケーション技術の習得 *バズ・セッション、ディベート等 ○チームワークの育成 *集団の目標の設定 ○目的や場に応じた表現の習熟 *教科「国語」との連携(言語事項)
5	情報収集・活用能力	○選別情報をはじめ様々な情報を検索する。 ○ガイダンスや講演から情報を的確に聞き取る。 ○資料から情報を的確に読み取る。 ○収集した情報を的確に判断する。 ○話し合い、討議を通して情報を共有化する。	○情報収集能力の向上 *教科「国語」との連携(読むこと、聞くこと) *教科「情報」との連携(情報活用の工夫、情報の収集・発信と情報機器の活用等) *図書館等の活用 *聞き取りシート、報告書、ワークシート、会議録等の作成
6	職業理解能力	○体験学習、奉仕活動等に参加する。 ○多様な他者とのコミュニケーションの場で、社会規範やマナーの意義を考える。	○体験学習の事前事後指導の充実 *目標の設定、振り返りと課題設定 *教科「公民」との連携 ○行事・講演会運営や学校外の方との交流に生徒を参加させる等、試行的な社会参加に準ずる場面の設定
7	役割担能力	○学校・クラス内の委員や係を分担し責務を果たす。 ○行事において役割を分担し責務を果たす。 ○生涯における自己の役割と責任を、社会参加・家庭生活などの面から考える。	○役割分担の意義の理解と意欲の喚起 *生徒による役割・係の創出 *教科「公民」との連携
8	計画実行能力	○目標の達成に向けて諸条件を勘案して計画を立てる。 *長期計画(生涯設計等) *短・中期計画(行事計画・学習計画・進路計画・部活動等の活動計画等) ○目標の達成に向けて進捗状況を把握し、計画を見直す。	○ガイダンス、体験学習後に、それらの活動から得た情報をもとに学習計画・進路計画を検討する機会の設定 *教科「家庭」との連携 *計画書の作成の指導 ○定期的な見直しの機会の設定
9	選択決定能力	○選択結果に伴う責任を認識した上で主体的に選択する。 *集団内の各種役割の選択 *部活動登録 *生徒会役員等選挙における投票 *選択科目・コース選択等	○主体的選択とその後の責任について自覚させる場の設定 *自己の選択理由の記述 *自己の選択に基づいたその後の行動目標の記述 ○意思決定のプロセスについて考察する機会の設定
10	課題解決能力	○目標の達成に向けて課題を設定し、その解決策を考える。 *学校生活における生活上の諸問題の解決や行事等の円滑な進行に向けた課題設定とその解決方法についての検討 *各種ガイダンス、面談、体験学習後、選択した当面の進路や学習を全うするための課題設定とその解決策の考察	○課題解決の技術の習得 *「K」法等 *教科「保健体育」との連携 ○ガイダンスや各学習後の個人指導

第4表はキャリア発達のための諸能力の伸長が見込まれる主な学習機会を能力別に整理し、それぞれの能力伸長のための工夫や各教科との連携についての考察を合わせてまとめたものである。これは第2表で示した「キャリア教育に重点をおいた特別活動年間計画（例）」における各学習項目の中に含まれる学習活動とそれらが伸長するキャリア発達のための諸能力との関係を分析、一般化することにより作成した。

### （3）各教科・領域の相互補完—キャリア発達のための諸能力を媒介として—

各教科・領域の相互補完を図るにあたり、キャリア発達のための諸能力をそれぞれの教育活動をつなぐ媒介として考える。

特別活動と「総合的な学習の時間」については本章（1）の授業実践と同じように、各単元に含まれる学習活動と伸長が期待できるキャリア発達のための諸能力の関係について整理できる。

各教科・科目については「高等学校学習指導要領」より、普通教育に関する必修科目についてその「内容」「内容の取扱い」等の記述を見ると、キャリア教育に関連する事項は相当数に上る。現代社会、倫理、家庭の学習内容のように直接キャリア教育の内容に関わるもののほかにも、国語、保健体育、外国語、情報の学習内容のように自己表現能力やコミュニケーション能力、情報収集・活用能力、課題解決能力等のキャリア発達のための諸能力の育成を通してキャリア教育を支える学習もある。「高等学校学習指導要領」では全教科にわたって「コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用」がうたわれているほか、多くの教科において適切な課題を設定して主体的に探究させる取組が求められている。又、外国語や情報の学習は職業人としての資質・能力を高めることにつながる。このように考えるとすべての教科においてキャリア発達のための諸能力の育成につながる学習内容が含まれているといえる。

キャリア発達のための諸能力を媒介として各教科・特別活動・「総合的な学習の時間」のそれぞれの目標と学習内容を十分尊重しつつ学習活動を関連づけることにより、各教育活動の相互補完を図ることができると考える。

### おわりに—今後の展望と課題—

今日、学校においては様々な教育課題への取組がなされている。キャリア教育も又、自立した社会人として自己実現を果たしていく力を育むことを社会から期待されているものである。教育課題が山積している学校において教職員全体の理解の上にキャリア教育をいかに円滑に教育活動全体の中に組み込み、各教育活動の目的を達成しつつ実践していくかがキャリア教育推

進の成否の鍵の一つである。

本研究では前述の点を鑑み、キャリア教育カリキュラムの開発と円滑な推進のための方策について考察した。その考察を踏まえて、キャリア教育カリキュラムの開発と実践にあたって、①中軸となる領域を定めること（特別活動）②キャリア教育の観点を設定すること（キャリア発達のための諸能力）③既存の学習活動に含まれる学習機会をいかして汎用性のあるカリキュラムを考案すること④キャリア発達のための諸能力を媒介として各教科・領域を関連づけることを提案する。

本研究では触れられなかったが、キャリア教育をより実りあるものとするためには、保護者をはじめ地域の方々や関係機関ともキャリア教育についての共通理解を図ることが必要である。「開かれた学校づくり」の取組の中で共通理解を形成し、各学校・地域の実情に応じた連携のシステムを作りあげることが望まれる。又、各学校においてはキャリア教育の目標の設定から評価システムの確立までの取組も必要である。今後の研究・実践を通して解決すべき課題である。

現在進行している教育改革の課題の一つは「生きる力」の育成である。キャリア教育の推進は、学びと生き方の一体化を図る視点から学校教育の在り方を見直す取組であるとともに、生徒一人ひとりが自立した社会人として将来にわたって主体的に自己実現を果たしていく力を育むことを通して「生きる力」の育成につながると思う。

### 引用文献

- 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 2002 「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）」  
文部科学省 2004 「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 報告書～児童生徒一人一人の勤労観，職業観を育てるために～」  
梶輝行 2004 「キャリア教育カリキュラムに関する理論的研究—キャリア諸能力の育成を目指すカリキュラムの構造分析を中心に—」（神奈川県立総合教育センター『研究集録第23集』）p. 20

### 参考文献

- 文部省 1999 『高等学校学習指導要領解説 公民編』 実務教育出版株式会社  
文部省 1999 『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』 東山書房  
仙崎武 2002 『新訂 21世紀のキャリア開発』 文化書房  
三村隆男 2004 『キャリア教育入門 その理論と実践のために』 実業之日本社  
柳井修 2001 『キャリア発達論 青年期のキャリア形成と進路指導の展開』 ナカニシヤ出版